

一 京都哲学会委員の異動

平成八年十月一日付をもって、川添信介氏（西洋中世哲学史助教授として着任）が新たに委員に加わられた。

二 京都哲学会公開講演会記事

平成八年度の京都哲学会公開講演会は、十一月三日午後一時半から楽友会館において、左記のごとく行われた。

一、ことばと思案

——とくに日本語と日本の哲学をめぐる——

京都大学教授 藤田正勝氏

一、理性とは………分別か

京都大学教授 荒牧典俊氏

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者とともに討論と歓談の一時を過ごした。

三 外国人学者来訪講演会記事

イバー・ハンス・イバーセン氏（ノースフロリダ大学教授）

「チンパンジーにおけるなぞり書きと模写の学習」

平成八年七月一九日 於京都大学文学部

ハンス・ヨアヒム・カール・ビショフ氏（ピルフェルト大学教授）

「性的刷り込みの行動的・神経生理学的観察」

平成九年一月二三日 於京都大学文学部

ジョエル・ピアール氏（フランス国立科学研究所主任研究員）

「ウィリアム・オッカムの言語理論——意味・志向・表象の観点から——」

平成九年一月二五日 於芝蘭会館

ジャン・マリ・ベイサード氏（パリ第四大学（ソルボンヌ）名誉教授）

「デカルト——ユギトと神のあいだ——」

平成九年一月二六日 於京大会館

四 京都大学文学部（哲学系）卒業論文題目

——平成八年三月——

哲 学

西村 正秀 ロックにおける自然的実体の本質について

山村 武由 ベルクソン『物質と記憶』における再認の過程

吉永 周平 デカルトの道徳論について

西洋哲学史

齊藤 一真 カントの道徳法則について
嘉目 純一郎 フッサールの他者構成論
岡 副文 男 認識論的還元とは何か——フッサール『現象

学 の理念』を中心に——

インド哲学史

有 國 由 花 古代インドの王権について
川 向 陽 一 古代インドにおける測量学

中国哲学史

東 川 祥 丈 王符の国家観

心理学

荻 原 晋 二 郎 C R T上の文字色とテキストの読みやすさの

関係

紺 井 美 基 子 人称表現が物語産出に及ぼす効果の発達の検

討

松 木 理 日本語テキストの読みにおける眼球の運動

木 村 康 子 新しい問柄での自己開示と役割期待との関係

渡 谷 雅 人 語彙の想起における映像のプライミング効果

近 藤 洋 史 ワーキングメモリの容量配分に及ぼす単語特

性の効果

阪 口 由 美 リスタ認知と意志決定の個人差について

豊 岡 新 比喩の面白さと主題の意味変化

長 谷 川 大 漢字音読時における形態的・音韻的プライミ

ング効果

服 部 健 司 日本人の外国人に対するイメージ

廣 瀬 文 乃 文章の理解・記憶に及ぼす予想活動の効果

藤 井 容 子 方向判断における地図の向きと身体の方きの

効果

文 倉 大 志 記憶における項目反復の効果

三 崎 将 也 図形弁別学習における認識次元の形成

森 彩 子 遊び場面における幼児の対人行動——相手の

年齢の影響——

横 川 紀 子 単語対の項目情報と連合情報の忘却

渡 邊 太 郎 連想手がかりとしてのカテゴリー属性の検討

倫理学

川 嶋 邦 雄 親鸞聖人の他力信心から出る人間観と倫理に

おける人間観との相違

鈴 木 真 J・S・ミル 功利性と平等

美学美術史学

朝 岡 慶 太 郎 室生寺金堂伝釈迦如来立像の制作年代

碓 井 み ち こ シラー「美的教育論」の循環構造について

大 西 啓 子 柳里恭絵画と長崎派の関係について

小野寺 由美 エゴン・シーレの人物画における手のポーズ
について

斎藤 英行 洛中洛外図屏風——季節表現の推移——

高田 充清 Kusan 朝下の Matsumura における石影単独
仏像及び三尊像の様式的分類

濱崎 加奈子 舞踊における「型」についての考察

早川 恵 杉浦非水画「非水百花譜」に関する一考察

藤本 憲明 マレーヴィチの前衛性——その特質と帰結

三上 真理子 キュビズムに関する考察

石金 知佳 バイオリンの歴史と真蹟に対する考察——

高橋 祐嗣 「名器」誕生の音楽史——

尾本 師子 リュミエールの空間性について

吉永 智彰 絵巻物の「場面」と「景」についての考察
ロマン派から映画へ

社会学

赤枝 香奈子 女性の意識形成とキャリア選択

入江 純子 社会的リスクに対する男女の意識観の一考察

岡 武史 現代日本におけるセクシャリティの文化
社会学的考察

小林 隆明 学級集団における排除の構造

新藤 明彦 カナダにおけるエスニシティとナショナリ
ティ

高木 学 都市から過疎地への移住現象の研究

松井 清則 国籍と帰化

戸田 一仁 小説と社会構造

布尾 勝一郎 日系移民の社会学的考察

明石 英夫 政治的無関心の社会学的考察

阿部 利洋 フィットネスクラブにおける現代的身体の生
成

石井 明子 「マジメ」の社会学的考察

井戸 聡 環境問題の社会学

井上 恒一郎 日本における野球文化の社会学的考察

岩崎 真明 相撲の社会学的考察

江崎 大吾 現代アメリカのジェネレーションと社会

木須井 麻子 少女小説の系譜——その歴史社会学的考察

真貝 美帆 デパート産業の誕生と発展

杉本 晶子 テレビ報道の変遷とその社会的影響

宗 佐直美 老人介護の社会学的考察

筒井 和隆 電子メディアの変貌と社会——テレビからマ
ルチメディアへ——

寺 次理江 近代「茶道」の社会学的考察

藤賀 大祐 「寄せ場」と「市民社会」

西島 千恵子 音と社会

廣池 真一 日本人のチベット像に関する社会学的考察

松浦 雄介 ナショナリズムにおける表象と正統性の諸問

題

都 陸 美 戦後の雑誌メディアに見る主婦役割の変遷

宮本 香 環境問題に関する社会学的考察

村上 浩 介 対人恐怖症の社会学的考察

守本 淳 ブロレスの「儀礼」に関する文化社会学的考察

察

安福 敦 子 観光現象の社会学的考察

山口 真 錦市場の空間の社会学的考察

山崎 陽 開発援助の社会学

宗 教 学

木村 信 也 ニーチェの『道徳の系譜』における道徳批判

について

角田 俊 行 南方曼陀羅と全体性

舟木 徹 男 フロイト『幻想の未来』に関する若干の考察

天王寺谷 佳子 宗教における象徴の問題

水野 友 晴 人格の成長と純粹経験の自発自展

荒井 秀 夫 ショーペンハウアーの意志の肯定と否定につい

て

佐藤 千 広 アドルノの形象について——アドルノのキル

ケゴール論より——

士佐 明 ヤスパースにおける「交わり」と実存

福井 耕 治 個性化の過程と自己実現について

護城 一 哉 『善の研究』における悪の問題

宮井 隆 美 ウイトゲンシュタインにおける宗教的信念に

ついて

仏 教 学

赤羽 律 修習次第中編に関して——その歴史とカマラ

シーラの止・観——

科学哲学科学史

多田 朋 ウェーバーの社会科学方法論における「客観

性」について

野澤 聡 運動と時間概念——デカルト『哲学原理』を

中心に——

日沖 桜 皮 リンド・パピルスにもとづく古代エジプト算

術の研究

五 京都大学大学院文学研究科（哲学系）

修士課程修了論文題目

——平成八年三月——

哲 学

沢崎 壮 宏 『規則論』におけるデカルトの認識論と方法

論

柴田 健 志 ライブニッツの形而上学——予定調和説の内

的構造に関する研究——

田中 総一郎 クワインの言語哲学

倫理学

中野 博二 前期サルトル哲学における「他者」の位置づけ

インド哲学史

小谷 能久 *Yogabhasya* における *samyama* について

西洋哲学史

廣瀬 祐也 無限なるものへの認識の途——クザヌスにおける *Pax fidei* の根拠をめぐって——

平尾 彰弘 観念と表象——スピノザにおける普遍の認識と個の認識——

宗教学

国松 萌美 ミルチャ・エリアーデにおける象徴
杉岡 正敏 ユングに於る自我の複合性と自己超越の関係について

仏教学

佐藤 直実 阿闍佞国土の女たち
田淵 淳広 *Ngai gso skor gsum* について

キリスト教学

金井 由嗣 『コーヘレト』の構造と思想

心理学

梅村 浩之 表面テクスチャーからの形状復元——複数手がかりの統合過程——

梶井 夏実 読書中の眼球運動からみた日本語の読みの過程——停留位置の分析を中心にして——

高田 明 素人理論の形成における対象の性質と情報源の影響

橘 雅弥 幼児の表情認知と感情カテゴリー
森崎 礼子 顔の類似性判断における脳内表現の検討

社会学

鎌原 利成 自虐・被虐性に関する社会学的考察

美学美術史学

大原 嘉豊 瀧上寺本九品来迎図に関する考察
平芳 幸浩 マルセル・デュシャンの身振り——「泉」を巡って——

松原 知生 シモーネ・マルティニーニと一四世紀シエナ絵画
若林 雅哉 アリストテレス『詩学』における悲劇と伝承

前川 真由美 T・W・アドルノ『キルケゴール・美的なも

の構成』について

三 谷 理 華 ジョルジュ・スーラ作「アニエールの水浴」

について

六 博士後期課程学修者氏名（哲学系）

——平成八年三月——

中国哲学史……亀田勝見、末永高康

インド哲学史……杉田瑞枝

西洋哲学史……折橋康雄

宗教学……脇坂真弥

キリスト教学……武藤慎一

美学美術史学……金井直、前川修

心理学……大須理英子

社会学……中里英樹、水垣源太郎、藤吉圭二、呉知恩